

| | | | |
|-------------|------|-----|------------|
| 初等教科教育法（国語） | 担当教員 | 単位数 | 授業形態 |
| | 森 洋子 | 2 | e-Learning |

I 学修の概要

- ・日常言語生活と国語科学修内容の密着性の理解の下に学習指導要領を細かくみ解く学習
- ・学習者の言葉獲得の道筋を、人間の発達から理解する学習
- ・国語科指導事項と教科書教材との関係を、筆者・作者の意図を汲み取る立場から理解する学習
- ・主体的に学習させていく国語科指導法のあり方の学習
- ・指導と評価の一体化の上に立つ 評価法を理解する学習

II 学修到達目標

- (1) 小学校学習指導要領国語について 国語科の目標・指導内容を理解し、その特異性を踏まえて指導すること
- (2) 文章の読解など言語活動を通して言葉の獲得をさせていく国語科指導のあり方を熟知し指導が出来ること
- (3) 国語科の指導事項を教科書教材と関係付けて指導できる見方・考え方で、目標到達の授業法に結ぶ指導力とその評価の仕方を身につけること

III 目的

小学校における国語科の指導のあり方に関して、家庭教育にはじまる言葉の学習を、学校で思考力・表現力育成の指導に結ぶことに視点をもち、言葉を学ぶことへの自覚を促し、言葉の果たす役割の自覚化を深化させていく指導法を身につけることを目的とする。

IV 小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 学習指導要領の示している目標・内容の理解を深め、国語科の持つ特異性から発達の系統性を踏まえて具体的に理解していること
- (2) 学習者のもつ国語科の差異を熟知し、語彙力・思考力・表現力をつけていく授業のあり方を追究する授業ができること
- (3) 学習到達目標を明確にした国語科学習の指導案が作成でき、思考力表現力を高める指導法を追究していること
- (4) 国語科の指導内容にそって、学習者の国語力を向上させる評価が出来ること
- (5) 国語科指導のあり方に関して、高い見識と技能を身につけていること

第1講 国語科学習と学習者の理解

1. 概要（何を学ぶか）

6歳児の国語の授業教室の様子から、それぞれの児童と言葉の認識の実態について学ぶ

2. 学修到達目標

- (1) 学習者の国語学習は生まれ落ちたときから区々にスタートしていることが理解できる
- (2) 入門期の国語科の学習は日常生活中で始まり、日常生活を通して行われていくことが理解できる
- (3) 国語科における学習者の個人差とは、何かについて 理解できる

3. 追究トピックス

- (1) 6歳児の「言葉理解の実態」と、その差異の発生要因を説明しなさい。

第2講 学習指導要領と国語科の授業（総則から）

1. 概要（何を学ぶか）

学習指導要領国語の総説に示していること、国語科授業でもとめられていることと合わせて具体的に把握する学びをする

2. 学修到達目標

- (1) 学習指導要領総則及び国語の 総説の部を読み解き、国語科指導の重点・主旨について理解できる
- (2) 育成する力を「資質・能力」で示されていること、身につけさせる力や言語力について理解できる

3. 追究トピックス

- (1) 国語科で指導していく「言語能力の育成」と、「資質・能力」の育成のあり方について関係づけて理解したことを述べなさい。

第3・4講 国語科の指導目標の理解と獲得させる国語力

1. 概要（何を学ぶか）

「学習指導要領 国語」の指導目標を、小・中学校通して比較した読み解きをして、国語科の指導目標から他教科との特異性を学ぶ

2. 学修到達目標

- (1) 学習指導要領国語の国語科の目標について小・中を通して読み解き、指導の同一点、相違点が理解できる
- (2) 義務教育における国語科の指導のあり方を、発達に即して理解することができる

3. 追究トピックス

- (1) 小学校国語科の指導に当たって、学習指導要領の示す国語科の目標の読み取りの深まりがどのようにできたか、次の二つの視点から述べなさい。
 - ・学習者の発達の視点から
 - ・国語科、言葉への指導の深化の視点から

第5講 学習指導要領 国語 指導内容の理解

1. 概要（何を学ぶか）

「学習指導要領 国語」の内容構成の読みとりを通し、国語科の3つの指導領域（読むこと、書くこと、話す聞くこと）との関係づけ指導が、思考力や表現力に至ることをと学ぶ

2. 学修到達目標

- (1) 国語科授業での「言葉の獲得」が学習者の「資質・能力」の育成に資する指導となるには、授業中での言語活動が適切に展開されることであること、と理解できる
- (2) 国語の時間での言語活動が、学習者の学習事項となるその関連を理解する

3. 追究トピックス

- (1) 国語科の授業でのそれぞれの活動内容と、身につけてさせる力、思考力・表現力と関係づけて説明しなさい。

第6講 学年目標の項目① 学校、家庭及び地域の生活に関する内容

1. 概要（何を学ぶか）

学習者個々の言葉は、本人の感性とその生活環境から身につけてきていることを理解し、国語科授業では、言葉を広げ・深めていく授業として指導することであることを学ぶ

2. 学修到達目標

- (1) 国語の授業を行っていく対象者のそれぞれの言語環境の違いと言葉の理解の差異について理解ができる
- (2) 言葉の獲得は、本人の感性や生活との深い関係があることを理解できる

3. 追究トピックス

- (1) 児童が日常に使っている言葉を国語の授業を通して、言葉の意味や使い方を深め・広げていく指導の仕方について事例を挙げて説明しなさい。
- (2) 言葉と物との関係の捉え方は個々に違うことから、国語科の指導の意義と結びつけて説明しなさい。

第7講 国語科の指導内容と教科書についての理解

1. 概要（何を学ぶか）

言語力育成と思考力・表現力等の育成の関係を教科書教材から理解し、授業目標の的確な設定ができるように、国語の内容領域への認識を深める学びをする

2. 学修到達目標

- (1) 国語科の指導内容としての 知識・技能、思考力・表現力等の育成を教科書教材の扱い方から、指導の実際を想起しながら理解できる
- (2) 思考力・表現力の育成と国語の内容領域との関係を理解できる

3. 追究トピックス

- (1) 国語科の指導内容について、教科書教材の一つ「海の命」を概観し 「知識・技能」「思考力・表現力等の育成」とつなげた観点での指導法の概観を述べなさい。

第8・9講 思考力・判断力・表現力等の指導法 [読むこと] 1

1. 概要 (何を学ぶか)

文種による読みとりの方法の違いを理解し、「物語の文章」の読みとりの指導法を、明解な指導目標の設定、言語活動を位置づけた学習過程の下に、指導案の作成で学ぶ

2. 学修到達目標

- (1) 教材「物語の文章」を読む学習を通して、言葉への知識・技能を増幅させ、文章読解の力を身につけさせる国語科授業の指導法を理解する
- (2) 「物語の文章」の学習を通して、読解力を身につけさせる指導過程が理解できる

3. 追究トピックス

- (1) 4年の『読むこと』の教材『一つの花』 今西祐行 作 について
読むことの指導目標（場面の移り変わりと人物の気持ち）に準じて、「問い」を立てて、7時間の指導過程を考案しなさい。

第10講 思考力・判断力・表現力等の指導法 [読むこと] 2

1. 概要 (何を学ぶか)

「読むこと」に関する教材の指導法について、明解な教材観の下に、指導目標設定とその指導過程とを学ぶ

2. 学修到達目標

- (1) 教材「説明の文章」を読む学習を通して、言葉への知識・技能を増幅させ、文章読解の力を身につけさせる国語科授業の指導法が理解できる
- (2) 「説明の文章」の読みとりの力と思考力・表現力をつける学習過程が理解できる

3. 追究トピックス

- (1) [読むこと]の授業を、思考力・表現力等の育成に資する学習としていく授業展開について、理解したことを文章にまとめなさい。2. 3の見出しを設定して述べなさい。

第10講 生活科の学習評価

1. 概要 (何を学ぶか)

生活科の学習評価を進めるにあたり、学習指導要領に基づき、単元ごとに観点別に評価基準を整理・検討する

2. 学修到達目標

- (1) 生活科の学習評価を進めるにあたり、学習指導要領に基づき、単元ごとに観点別に評価基準を整理・検討することができる

3. 追究トピックス

- (1) 生活科の学習評価を進めるにあたり、学習指導要領に基づき、単元ごとに観点別に評価基準を整理・検討しなさい

第11講 国語科指導内容 思考力・判断力・表現力等の指導法 書くこと

1. 概要 (何を学ぶか)

内容「書くこと」配当されている指導時間数を、有効に指導できる指導計画の策定など、書くことの指導法について学ぶ

2. 学修到達目標

- (1) 単元としての「書くこと」の指導の仕方が理解できる (読むこと話し合うことの学習活動後の「書くこと」の指導のあり方も含めて理解する)
 - (2) 「書くこと」の学習が、思考力・表現力を身につけさせるために最も有効となる学習であることを理解し、その指導過程を理解する
3. 追究トピックス
- (1) 書くことの学習指導法について、学習者の書くことへの意識を踏まえ、その指導法を、低・中・高の段階を踏まえて述べなさい。

| |
|--|
| 第12講 国語科指導内容 思考力・判断力・表現力等の指導法 話すこと聞くこと |
| 1. 概要 (何を学ぶか) |
| 伝え合いのできる集団形成の必要性を理解し、実際に話し合う活動の授業手順について学ぶ |
| 2. 学修到達目標 |
| (1) 「話すこと聞くこと」の学習活動の仕方について、児童の発達に即して、聞き方を教える活動を入れて 身につけさせる方法が理解できる |
| (2) 対話的で深い学びに至る「話すこと聞くこと」の活動のさせ方を理解する |
| 3. 追究トピックス |
| (1) 伝え合い学習ができる学級の素地づくりと、「話すこと聞くこと」を思考力・表現力に結びつけていく指導のあり方について、双方の関連づけの必要性を述べなさい。 |
| 第13講 国語科指導内容 「知識及び技能」に関する指導法 |
| 1. 概要 (何を学ぶか) |
| 学習指導要領 国語の内容「知識及び技能」の指導内容について理解をする学びを行う |
| 2. 学修到達目標 |
| (1) 指導要領に示されている「知識・技能」の内容を理解し、これらの力を国語科の3つの領域の学習を通して指導すること、その指導法を理解する。 |
| (2) 書写指導目標と指導法の概要を関連づけて理解できる |
| (3) 古典と称している言語文化について、指導目標と授業展開の概要が理解できる |
| 3. 追究トピックス |
| (1) 国語科指導要領の内容 「知識・技能」で示していることがらについて、どのように指導していくことを期待されているのか、「漢字」の指導を取り上げ 言語力の育成と関わって指導の方法を説明しなさい |
| (2) 伝統的な言語文化の教材の指導法について、5年「古典の世界 I」の教材を取り上げ 指導の概要を説明しなさい |
| 第14・15講 国語科指導と学習評価 |
| 1. 概要 (何を学ぶか) |
| 国語科における指導と評価の関係を理解し、指導の観点の設定に基づく評価項目の設定の仕方を理解し、指導と評価の一体化に関する学習する |
| 2. 学修到達目標 |
| (1) 国語科における資質・能力の育成を目指して「目標に準拠した評価」を行うことの理解ができる |
| (2) 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価方法を理解し、授業改善に役立てることができる |
| 3. 追究トピックス |
| (1) 今期の学習指導要領の実施に関わった学習評価は「指導と評価の一体化」をキーワードにして評価のあり方を追究している。一体化させた評価とはどのように評価することか。一教材の事例を挙げて説明しなさい。 |

